

# [図書館] 行政経営計画書（総括表）

## ■事務事業の総括

No.	事務事業名	様式 区分	R3 年度計画額（単位：千円）		R3 年度必要人工	
			計画額	内特定財源	職 員	会計年度 任用職員
1	図書館運営事業	A	34,586	180	3.0	7.0
合 計						

## ■特記事項

# 令和3年度 事業別行政経営計画書【A】

所属名	図書館	No.	1
事業名	図書館運営事業		

## ■基礎情報

目的	<p>時代や利用者のニーズを的確に把握して、利用者に対して必要な図書や資料の提供に努め、利用者の増加を図る。積極的に図書館から利用者へ新たな本との出会いの場を創出し、図書館サービスの向上を図る。</p> <p>幼いころから本に身近に触れ、本に親しむ習慣を育み、読書活動の推進に努める。郷土資料を“文化財”として守り、後世に伝える。</p>	
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書館の調査及び統計に関すること</li> <li>・ 図書館の広報に関すること</li> <li>・ 図書館年報の作成</li> <li>・ 図書資料の貸出・返却に関すること</li> <li>・ レファレンス(参考調査)に関すること</li> <li>・ 図書館資料の選書に関すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 郷土資料の収集・保存等に関すること</li> <li>・ 読書活動の推進に関すること</li> <li>・ おはなし会・上映会等のイベント開催に関すること</li> <li>・ 図書館資料の分類・整理及び目録作成・保管に関すること</li> </ul>
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開館から40年が経過し、エレベーターや通路の狭さ、高い書架など障害者差別解消法に対応することが困難な施設となっている。また、施設の面積には限界があるため、蔵書数の拡充・閲覧席の増設・視聴覚資料閲覧用の機器設置など、多様化・高度化する住民ニーズに応えることが難しい。</li> <li>・ 平成27年度から図書館利用者カードの有効期限を5年に設定して、5年以上利用されていない利用者カードを無効にする作業を進めた結果、登録者数は平成26年度末の13,438人から平成28年度末の7,176人まで減少したが、令和元年度末には8,539人となり毎年増加している。</li> <li>・ 令和元年度13歳～29歳の貸出冊数は全体の6.5%と他の年齢層と比べる大変低くなっている。</li> <li>・ 高齢化の進展により、令和元年度60歳以上の利用率が19.8%(平成30年度19.4%)増加傾向にあるため、高齢者の憩いの場所にもなるように、ニーズを分析する必要がある。</li> <li>・ 令和元年度の年齢別の利用者が多いのは、40歳から49歳まで24.8%を占めており、利用者の4人に1人となる。</li> <li>・ 雑誌スポンサー制度の登録数は、令和元年度末で15件となっている。令和2年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため臨時休館をしたため実施できなかったが、今後も雑誌スポンサーの獲得に努めなければならない。</li> <li>・ 松江市との姉妹都市提携により堀尾吉晴公を始め、大口町の歴史に対する関心が高まっている。郷土を知り、愛着と誇りを持つために、郷土資料を広く住民に提供することが求められている。</li> </ul>	

令和3年度の 目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の特設コーナーを令和元年度より1か所増やし、現在特設コーナーを図書館内で4か所設けているが、より利用者が新たな本を手にとってもらえるようにテーマや選書に努める。</li> <li>・NPO法人「子どもと文化の森」と協働で日本の文化を子どもに知ってもらう事業を実施し、子ども達に日本の文化を知ってもらう機会とする。 今後も毎年ひとつずつ日本文化を知ってもらう企画を実施して、日本文化を小さな時から知ってもらい興味を持ってもらうよう努める。</li> <li>・平成27年から開始した「憩いの四季・図書館まつり」は、5年を境に事業の見直しをして、町のふれあいまつりと併せて実施することとする。</li> <li>・図書館の根幹をなす図書の選書については、利用者により興味を持ってもらえるように本の売上ランキングや本屋の陳列図書なども参考にしながら、利用者ニーズの把握に努める。</li> </ul>
-----------------------	---

## ■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の体系		基本目標	第4章	人の知恵・技・情報が生きる元気コミュニティを創造する				
		基本政策	第1節	生涯学習の推進				
成果指標	利用者ニーズにあった図書館サービスの提供 蔵書点数と貸出点数/人口							
	H25実績値	R1実績値	R2計画値	R3目標値	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値
蔵書点数	84,384点	96,944点	90,000点	95,000点	92,500点	90,000点	87,500点	85,000点
貸出点数/人	9.7点	9.1点	11点	11点	11点	11点	11点	11点

成果指標	子どもの読書活動の推進 おはなし会・上映会参加者数と児童図書点数							
	H25実績値	R1実績値	R2計画値	R3目標値	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値
参加者数	210人	374人	300人	0人	0人	0人	0人	500人
児童図書点数	32,390点	36,195点	34,500点	36,000点	35,000点	34,000点	33,000点	41,500点

成果指標	住民・企業・行政の協働による図書館サービスの支援体制の充実 ボランティア登録者数とスポンサー登録数							
	H27実績値	R1実績値	R2計画値	R3目標値	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値
ボランティア登録者数	2人	0人	12人	0人	0人	0人	0人	20人
スポンサー数	0団体	16団体	10団体	16団体	16団体	16団体	16団体	20団体

成果指標	新図書館を核とした人が集う複合施設の建設 入館者数と郷土資料点数							
	H25 実績値	R1 実績値	R2 計画値	R3 目標値	R4 目標値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値
入館者数	104,212人	97,839人	120,000人	80,000人	80,000人	80,000人	80,000人	200,000人
郷土資料 点数	2,580点	3,152点	2,700点	3,000点	3,000点	3,000点	3,000点	3,000点

### ■ 3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の増加</li> <li>・図書館事業の参加者の増加</li> </ul>				
項目(単位)	R1 実績	R2 計画	R3 目標	R4 目標	R5 目標
図書館利用者数	39,206人	25,000人	33,000人	33,000人	33,000人

### ■ 2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R4年度	<p>新型コロナウイルス感染症による影響が図書館事業にも多々見られ、特に感染拡大の際には来館者を一部制限するなど、図書館の基幹事業である図書資料等の貸出や事業の縮小を余儀なくされており、「人との接触や密を避けながら」といった「かつてない運営形態」を迫られている。このような状況下で「利用者の滞在時間を少なくして、利用者が効率的に選書」できるようにICT（情報通信技術）の活用を検討する。</p> <p>現在の図書館システムは更新後5年以上が経過しており、老朽化はもとより、利用者の利便性を考えたうえで「スマートフォンでの資料検索や予約が見づらい」ということが課題となっている。これは現システムがスマートフォン画面に対応していないことによるもので、図書館システムの更新でスマートフォンでのスムーズな資料検索や予約が可能になれば、利用者の人流や滞在時間を減らすことが期待され、収束が見通せない新型コロナウイルスの感染防止と利用者の安心と満足度の向上の両立につながる。</p>
R5年度	<p>新型コロナウイルス感染症による「外出しにくい社会情勢」の中で、「いかに図書館の利用者を増やしてその満足度の向上を図るか」ということに着目して「ICT技術の活用」を検討する。</p> <p>スマートフォン保持者の増加により、平成29年度には一時アクセス数が減少したものの、次年度以降のアクセス数は増加を続けていることから、その必要性は十分認められるため、新たな利用者を得られやすいコンテンツから「電子書籍」の導入を検討し始める。</p> <p>また、小中学校でギガスクール構想がはじまることに加え、町制60周年を機に「新・大口町史」が発刊されることから「郷土資料」に着目し、子どもから高齢者まで、幅広い層へ所蔵している郷土資料を提供できるようにするため、デジタル化を思案して「郷土おぐち」に関する重要郷土資料を保存・活用し未来に残す「郷土資料のアーカイブズ」を検討する。</p>

## ■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	☆子どもの読書週間 4月23日（金）～5月12日（水）
6	☆課題図書の出し開始 6月1日（火）～8月31日（火）
10	★図書館特別館内整理日 9月27日（月）～10月4日（月）
	☆読書週間 10月27日（水）～11月9日（火）
11	◎ふれあいまつり図書館参加 11月7日（日）
12	●第1回 図書館協議会開催
1	◎NPO「子どもと文化の森」との協働事業
2	●第2回 図書館協議会開催
毎週	図書館資料の選書（各誌ランキング・書評・リクエスト等から） 図書の開架・書庫への移動・除籍の検討
毎月	月報の作成 おはなし会 月1回開催 第2木曜日の職員全体会での情報共有と職務内容等の検討 広報おおぐち「図書館だより」作成
その他	年報の作成 郷土資料の整理収集 ホームページで行事等の紹介 特設コーナー リユースコーナー（除籍された図書館本・雑誌）の常設

## ■事業コスト

		単位	R1 年度決算額	R2 年度当初予算額	R3 年度計画額
事業費		千円	30,761	32,577	34,586
（内特定財源）		千円	158	188	180
人工	職員	人工	3.0	3.0	3.0
	会計年度 任用職員	人工	6.7	7.0	7.0
	計	人工	9.7	10.0	10.0

## ■令和3年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
【雑入】書籍忘失等代金	26	10-5-3-03 事業-10 需用費
【雑入】雑誌スポンサー料収入	154	10-5-3-03 事業-10 需用費
合計	180	

## ■令和3年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
視聴覚資料費	541	△614	図書館蔵書の見直しのため
図書館修繕工事費	0	△317	修繕予定がないため
図書館備品購入費	0	△494	備品購入予定がないため

## ■目標又は改善策に対する取組内容

- ・図書館の来館者は時事問題に関心が高い利用者が多い傾向にあるので、図書の選書では文学賞以外にも時事問題や社会問題はじめ、作家の生誕記念や追悼などに注目して選書・特集を組んだ。
- ・子どもの読書推進事業では日本発祥の文化である「紙芝居」に焦点を当てて講演会を行った。

## ■評価

- ・コロナ禍が続いている中での運営となったが、時事問題や社会問題の鮮度の高い話題を中心にした選書を行うことができた。一般図書では故・瀬戸内寂聴氏や故・石原慎太郎氏の逝去を受けての特集を組み、多くの利用者に本館所蔵の図書を提供できた。また、児童図書では東欧での紛争をテーマにした「平和を考える」特集が大きな反響を得た。
- ・令和4年12月10日に子どもの読書推進事業として、壁画家で紙芝居作家の松井エイコ氏を講師に招き「紙芝居で心をつなごう！～今を生きる力とは～」と題した講演会を開催して子どもへ日本発祥の文化である「紙芝居」の素晴らしさを伝えることができた。
- ・ふれあいまつりの中で予定していた図書館まつりは新型コロナウイルス感染症の影響により、ふれあいまつり自体が中止となったため開催できなかった。
- ・様々な社会情勢の不安定さから雑誌の値上がりや発行回数の変更が顕著になり、予算どおり購入できない資料も出てくるのが予想されるため、契約雑誌の見直しが必要である。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で臨時休館や一部利用制限がある中で利用者が減少したものの、ワクチンや感染症への個々の対策により利用者は徐々に戻りつつあるので、閲覧席や学習スペースの座席数を見直すことをはじめ、利用者増加のために広報やホームページでの周知の工夫が必要である。

## ■特記事項

--